

夢の舞台に挑む若きアスリートたち

問い合わせ

社会教育課スポーツ振興係(中央公民館内) ☎73-11118

市内には、それぞれの夢や目標に向かって努力を重ね、さらに大きな舞台へ挑んでいる若者たちがいます。今回の特集では、全国の舞台に挑む若きアスリートたちを紹介します。

苦難を乗り越え甲子園へ

た」と話しました。

狙うは16年ぶりの優勝

1月27日、菊川市に一足早い春を告げるうれしい知らせが届きました。常葉大学附属菊川高等学校(以下、常葉大菊川)野球部が、「第95回記念選抜高等学校野球大会(春のセンバツ)」へ出場することが決定しました。同校のセンバツ出場は、平成25年以来10年ぶり5回目。春夏通算11回目の甲子園出場です。

大きな夢を叶え喜ぶのもつかの間。石岡諒哉監督は、「他の出場校の打率などを見ると、自分たちも全てにおいてレベルアップする必要があると感じています。出るからには優勝を目指しますが、まずは初戦に勝てるよう、準備をして臨みたいですね」と全国の強豪校との対戦を見据え、気を引き締めます。また、「本当に多くの市民の皆さんに応援していただいていると感じています。甲子園では、市民の皆さんに感動を与えることができますような野球をしたいと思っています」と意気込みを語りました。

春の球宴いよいよ開幕!

昨年夏の県大会では、新型コロナウイルス感染症の影響で、主力の3年生が出場できないまま試合に臨み4回戦敗退と悔しい思いをしました。その悔しさをバネに、秋季大会では投手陣を中心とした粘り強い試合で勝ち進みました。10月30日に県営草薙野球場で行われた東海大会決勝戦では、愛知県の東邦高校と対戦。決勝の舞台でも果敢にプレーし、準優勝の成績をおさめました。

春のセンバツは、3月18日に阪神甲子園球場で開幕します。甲子園という夢の舞台での勝負に挑む常葉大菊川ナインを、みんなで応援しましょう。

10年ぶり5度目のセンバツで優勝を目指す

常葉大学附属菊川高校 野球部



3月7日、センバツ出場の報告のため市役所を表敬訪問した選手たち

手作りの看板で地域から選手にエールを送ります

常葉大菊川野球部の学生寮がある加茂の白岩下地区では、同部が甲子園に出場するたびに、有志の応援団が応援看板を制作し、学生寮に飾ってきました。今回も新たに応援看板を制作。今年は「多くの生徒に見てほしい」との思いから、西方の練習グラウンドに掲げられ、練習に励む部員たちを鼓舞しています。応援団幹事の野中さんは、「野球部の皆さんには、常葉菊川らしい元気のある野球をしてほしいです」とエールを送りました。



▲学生寮前に飾られた応援看板



白岩下地区
有志応援団
野中 茂雄さん